

## テーマ：知っとこ！私たちの関わる世界の現実

ファシリテーター（グループ）：不平等チーム

ファシリテーター（参加学生）

山田里沙、中條龍馬、小林亜依、亀山遥平、石井太郎、佐藤早紀、山口裕加

### 1：本テーマの趣旨

私たちの生活に身近なものから、世界への視野を拓げるためのワークショップを行う。まず初めに自分たちがどのような人々と関わっているのかを考える。そこから題材をバナナにしぼり、バナナの流通過程、そして日本のバナナ輸入国1位のフィリピンはどんな国なのかを知り、生産地の状況を劇で見てもらう。

バナナの流通に関わっている生産者・企業・消費者がどのようなことを考えているのか理解するために、ロールプレイングを行う。各立場の人がどのような状況なのかを知った上で、どのようにしたらその立場間の対立を解決できるかを話し合っ考える。

### 2：本テーマの目的

身近なバナナを通じて、日本に住む私たちと世界が繋がっているということに気づいてもらう。また、流通に関わる様々な人や機関の仕事内容や考えを知ることで、私たちが意図せずに他者を苦しめてしまっているという現状（構造的暴力）の中で生きているということも知ってもらう。

### 3：本テーマをとりあげる理由

世界各地で起こっていることに関して、私たちはどれくらい関心を持てるだろうか。大半の人は自分とは無関係なことには、あまり興味をもてないと思う。しかし現在、世界各地で起こっている出来事は、決して私たちと無関係なことではない。このことを考えてもらうために、多くの人が1度は食べたことがあるだろうバナナを題材として取り上げることにした。

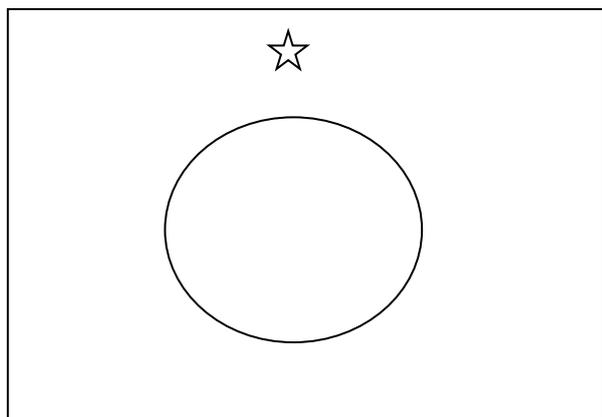
4 : 活動過程 (使用時間 : 110分 参加人数 : 41人)

過程 (所要時間)	活動内容とそのねらい	ファシリテーターの支援活動(教材, 発問, 説明, 指示)	使用する教材	生徒の予想される反応. その他, 注意事項
アイスブレーキング(20分)	<p>・自己紹介 参加者同士で互いの名前と顔を覚えてもらう。</p> <p>・バースデーリング 言葉を使わずに、互いの誕生日を探り、順番に円になる。</p> <p>・身体で表現ゲーム 出されたテーマを身体を使って表現してもらう。</p>	<p>話しかけられない子がいたら、ファシリテーターが積極的に話しかける。</p> <p>普段とは異なるコミュニケーション手段によって意思疎通を図り、ワークショップ中に意見を出しやすいような雰囲気づくりをする。</p>	<p>・名札 ・ペン</p>	<p>名札の書き方がわからない生徒には書き方を教える</p> <p>孤立する子が出ないように配慮する</p>
導入(30分)	<p>・「今朝起きてから今まで、誰と関わった?」(20分) ○今朝起きてからどんな人と関わったかを考える。普段の生活にどれくらいの人に関わっているのかを考えていく。</p> <p>・バナナの流通(5分) ○バナナが市場に出るまでの工程と、そこにはどんなファクターが関わっているのかを知ってもらう</p> <p>・バナナ生産地(フィリピン・ミンダナオ島)の説明(5分) ○フィリピンに関する基</p>	<p>まずは「お母さん」「先生」「近所のおじさん」などの意見が挙がると思う。 →さらに「野菜を作ったのは誰?」「布団を作ったのは?」など、さらにどんな人が生活に関わっているのかを考える。</p> <p>流通ルートの説明と同時に、産地(フィリピン)と私たち(日本)の間に様々なファクターと大きな企業(米国資本)が介入していることを説明する。</p> <p>フィリピンの基本情報を知ってもらう 【内容】 ・位置、気候、人口、言語、</p>	<p>・模造紙 ・ペン</p> <p>・図 ・磁石</p> <p>・地図</p>	<p>子どもたちに話しかけながら、思い出してもらう。</p> <p>解説が長くならないように気を付ける</p> <p>フィリピン=バナナというイメージにならないように、首都マニラや工業輸出につ</p>

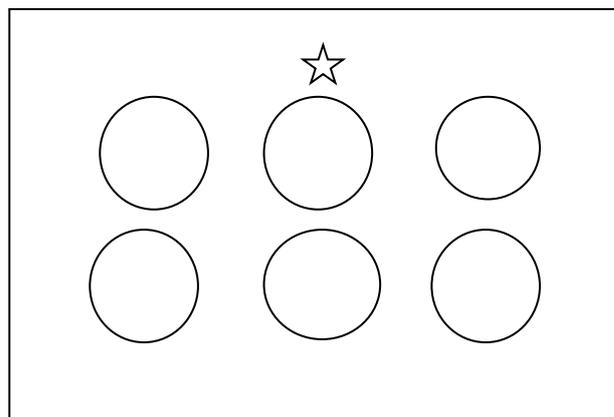
	<p>礎知識と歴史背景を知ってもらおう</p>	<p>宗教、広さ(農園も)、国旗、観光名所等</p>		<p>いても触れる。</p>
<p>休憩 (10分)</p>		<p>後半の準備</p>		
<p>展開 (45分)</p>	<p>・「生産者・企業・消費者の気持ちになってみよう」(GW) (20分) ○それぞれの立場の主張をぶつからせて、対立の存在を明らかにする。</p> <p>・「どうしたら対立をなくせるか？」 (25分)</p>	<p>生産者、農園の地主、多国籍企業、消費者の各立場になりきってもらい、ロールプレイングをチーム内で行う。</p> <p>先ほど出た対立はどのようにしたら解決できるかを、チームで話し合ってもらおう。 その後、各チームの意見を発表してもらおう。</p>	<p>・台本</p>	
<p>まとめ (5分)</p>	<p>・まとめ(5分) バナナを通して、日本とフィリピンが繋がっているということと、他の物にもこのような構造が出来ている場合があるということを伝える。</p>			<p>話が長くなりすぎないように気をつける。</p>

## 5：会場のセッティング

・アイスプレイング中



・ワークショップ中



○：生徒

☆：ファシリテーター

## 6：使用する教材

世界地図

バナナ農園などの写真やイラスト

## 7：参考にした資料

○参考文献

鶴見良行（1982）『バナナと日本人～フィリピン農園と食卓のあいだ～』岩波書店

中村洋子（2006）『フィリピンバナナのその後—多国籍企業の操業現場と多国籍企業の規制』七つ森書館

クラウス・ベルナー、ハンス・バイス（2005）『世界ブランド企業黒書』明石書店

○その他

フェアトレード認証ラベル [http://www.wakachiai.com/shop/img/ft/ftj\\_general\\_06\\_10.pdf](http://www.wakachiai.com/shop/img/ft/ftj_general_06_10.pdf)

## 8：その他